

感染症が変えた社会

小田中 直樹

目次

(1)感染症と社会の関係の歴史をみる

(1-1)ペスト：14世紀・南ヨーロッパ

(1-2)天然痘：15世紀・ラテンアメリカ

(1-3)コレラ：19世紀・ヨーロッパ

(1-4)インフルエンザ：1918-19年・全世界

(2)コロナ禍・ポストコロナ社会への含意を探る

(2-1)感染症の社会的性格

(2-2)変わることもあれば、変わらないこともある

(2-3)「人類初の体験」ではない

(2-4)人間は万能ではない

(2-5)自然環境との関係を考慮する必要（今日はあまり話せません）

(1)感染症と社会の関係の歴史をみる

(1-1)ペスト：14世紀・南 ヨーロッパ

- ・世界人口4億人中1億人が死亡



(1-2)天然痘：15世紀・ラテンアメリカ

- ・ラテンアメリカ先住民の約半数が死亡



(1-3)コレラ：19世紀・ヨーロッパ

・第二次パンデミック（1829-37）で100-200万人が死亡



(1-4)インフルエンザ：1918-19・全世界

- ・世界人口18億人中2000-5000万人が死亡



(2) コロナ禍・ポストコロナ社会への 含意を探る

(2-1)感染症の社会的性格

- ・ 社会は感染症の発生を促す。
- ・ 感染症は社会の変容をもたらす。

- ・ 感染症はヒトからヒトに伝染する。
- ・ ぼくらは「患者」を恐れる。

(2-2) 変わることもあれば、 変わらないこともある

- ・ ペスト：パンデミックが終われば、元の間人間関係が復活する。
- ・ インフルエンザ：USAにおける反マスク同盟の結成。

(2-3) 「人類初の体験」ではない

- ・ インフルエンザ：1945～三回のパンデミック
アジア風邪（1957）：数億人の感染者、
100-200万人の死者
香港風邪（1968）：数億人の感染者、
50-400万人の死者
ソ連風邪（1977）
- ・ COVID-19を相対化してみることの必要

(2-4)人間は万能ではない

- ・ コレラ：「ミアズマ」原因説（正しくない）
→都市計画・都市改造（正しい）
- ・ 逆もありうる
- ・ 試行錯誤を許容する必要

(2-5) 自然環境との関係を考慮する必要

- ・ 非都市部で暮らせるか？
- ・ 非都市部への人口移動は自然破壊をもたらさないか？
- ・ 自然破壊は新しい感染症の出現を促さないか？
- ・ 自然災害はリモートワークを阻害しないか？